



子どもたちのより良い成長を願って～この1年の歩みを振り返って～

校長 土屋 智樹

令和6年度も残り1か月となりました。この1年間を振り返りますと、子どもたちは様々なことを学び、経験しました。学校での学びを通して、本当に大きく成長したと感じています。

子どもたちの成長を感じさせてくれたことを紹介しますと、例えば、6年生を送る会。各学年ごとの発表では、下級生は6年生に対して、6年生は下級生に対して感謝の気持ちを表現していました。他者への感謝の気持ちはすぐに育つものではありません。自分一人の力ではできない難しいことを友達と協力しながら、様々なことを成し遂げることを通して、協力すること、協働することの大切さと支え合える仲間がいることの素晴らしさを子どもたち一人ひとりが、価値付けていったことだと考えます。

3学期最後の授業参観。多くの学年で学習の成果を発表する形式の授業が行われました。子どもたちは、自分自身ができるようになったことを言葉にして、時にはやって見せて、見に来てくださった保護者の方に披露していました。中でも、この1年間で自分が学んだことを振り返るとともに、来年度最高学年として、自分はこうありたいと堂々と発表していた5年生は見事でした。何もしないでも当たり前できていたことも、実は、今まで自分たちの知らないところで、先輩たちが学校を支えてくれたことに気付くことができたと言っていた児童。最高学年になったら、自分たちの手で歴代最高の学校を作りたいと言っていた児童。学んだこと考えたことは、一人ひとり違ってそれぞれの視点で語られていましたが、自分自身を、学校を、より良くしていきたいという気持ちはみな同じでした。

このように一人ひとりの成長が見られた子どもたち。しかし、成長したのは子どもたちだけではありません。私たち教職員も子どもたちから多くのことを学びました。職員室で、子どもたちをよりよく導いていくためにできることは何か、語り合う教師の姿を私は多く目にしました。自身の指導に悩み、時にはくじけそうになったりすることも。それでも、子どもたちのより良い成長を最後まで信じ続けました。そこには、教師一人ひとりの、何があっても私たちは全てを引き受けるという覚悟と責任がありました。

今年度、「学ぶ喜びのある学校」「学び合い高め合う学校」「つながりを大切にする学校」と目指す学校像を大きく変えさせていただき、1年が経とうとしています。発展途上かもしれませんが、私は、一歩ずつ着実に前に進めていると感じています。この挑戦はこれからも続きますが、大切なことは、私たち教師の、子どもたちのより良い成長を最後まで信じること。それが子どもたちの安心と自信となって、様々な挑戦の後押しにつながり、ひいては子どもたちのより良く生きようとする意志につながると私たちは信じています。

保護者や地域の皆様には、これからも子どもたちと教師の挑戦を温かく見守っていただけると幸いです。今年度の本校の教育活動を支えていただき、誠にありがとうございました。来年度もよろしく願いいたします。